

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 25 日現在

機関番号：82720

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24320136

研究課題名(和文) 中世都市鎌倉を中心とする宗教的ネットワークの研究

研究課題名(英文) A Study of religious network that progresses by centering on the medieval city of Kamakura

研究代表者

西岡 芳文(NISHIOKA, YOSHIFUMI)

神奈川県立金沢文庫・その他部局等・その他

研究者番号：90443407

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、中世都市である鎌倉を中心にして形成された宗教的ネットワークの様相を解明しようとする試みである。武家の首府として成長した鎌倉には、さまざまな仏教の流派が流入した。鎌倉においては、独自の宗教や学問が形成され、畿内の大寺院に対抗するだけの力を蓄えるようになった。その一端は、鎌倉周辺で独自に創り出された説草や、華嚴学の新たな流れからうかがうことができる。また辺境地域に展開した律宗の流れや、伊豆・三島などの霊場をめぐる人々の動きを通して、中世東国の宗教的ネットワークの様相を明らかにしようとした。

研究成果の概要(英文)：The present study is an attempt that starts clarifying the aspect of a religious network to which Kamakura that was the medieval town was mainly formed. The sect of various Buddhisms spreads in Kamakura that grew up as Headquarters of army. An original religion and study are formed in Kamakura. It came to save the power only of opposition to the minster in the Kinai region finally. For instance, Scenario of preach originally created around Kamakura, And, It is possible to look from a new trend of thought of the Kegon study. Moreover, Trend of Risshu that develops with frontier region. Or, Through the movement of people over the sacred place in Izu and Mishima, etc. It tried to clarify the aspect of a religious network in a East Japan region of the Middle Ages.

研究分野：歴史学

キーワード：歴史学 ネットワーク 仏教史

## 1. 研究開始当初の背景

仏教を中心とする日本宗教史の研究は、奈良・京都を中心とする畿内近国の大寺社に残存する資料をもとに進められてきた。教義・寺社組織・荘園経営・美術造形などのあらゆる分野において中央の寺社が研究の基軸となり、地方の宗教的状况についてはその垂流・模倣・伝播という視点から論じられるにすぎなかった。

日本の宗教組織がおしなべて畿内に本拠を置き、宗門史・教団史として研究が進められてきた事情を考えれば、こうした研究史のあり方も無理からぬところである。しかし、鎌倉幕府が成立し、新たな国家権力として武家政権が急速に勢力を拡大する中で、幕府が置かれた鎌倉が日本におけるもう一つの首府となり、政治・経済のみならず宗教・文化の分野においても中核的拠点を形成するようになった。

とりわけ蒙古襲来という未曾有の国家的危機が襲った13世紀中葉以降、日本全土を実質的に支配することになった鎌倉幕府・北条氏のもと、鎌倉に移入された仏教は、畿内で形成された教義・教団から離れて独自の展開をはじめようになる。中国の新しい寺院組織を学んで移入された禅律仏教、畿内では排斥された異説・異流儀の教えが、鎌倉を中心とする東日本地域で急速に組織化していった。中世後期の内乱の時代に大きな宗教的・政治的勢力となった真宗や法華宗などの、いわゆる「鎌倉新仏教」もその系譜を引いている。

本研究では、鎌倉を中心とする東日本に視座をすえ、既存の宗教史研究では見えなかった日本宗教の構造を総合的かつダイナミックに把握しようと試みた。

## 2. 研究の目的

研究代表者は、すでに平成20～22年度基盤研究(C)「鎌倉を中心とする中世密教の受容と展開」(課題番号20520607)において、称名寺聖教・龍華寺聖教を素材として、中世の鎌倉における密教法流の様相の一端を明らかにした。

この研究の中で、北条時頼から貞時にわたるいわゆる「得宗専制期」において、北条氏出身の頼助、その門弟に連なる元瑜らが、公的には異国調伏や政治的紛議の静謐を目的とする祈禱を行ない、私的には得宗はじめ北条一門・安達一門の後継者誕生や権力の拡大などの祈禱に従事していたことが明らかになった。鎌倉で展開した密教は、現世利益を極度に追求するところに顕著な特徴がみられる。また、北条時宗が円覚寺を創建するにあたり、頼助や元瑜に鎮壇作法を依頼するなど、初期の禅院が密教的基盤の上に立脚して出発したことを発見した。鎌倉時代以降の禅律寺院は、顕密仏教の土壌の上に移植され、成長していったのである。

本研究では、こうした成果を継承しながら、さらに広い視野から鎌倉周辺の宗教的状况を解明することを試み、次のような切り口から課題にアプローチした。

(1) 鎌倉幕府とともに都市としての鎌倉が成立する時期の宗教的環境を解明する手段として、幕府祈願所として崇敬され、手厚い保護を受けた三所霊場(伊豆・箱根・三島)の状況を把握する。伊豆山の勢力は広く東日本に及んでおり、かつ富士修験もまた伊豆山に属していたことから、富士信仰までも視野に収めた広域の宗教的世界が浮き彫りにできるであろう。

(2) 鎌倉に導入された密教法流をたどりつつ、中央の寺院と鎌倉の寺社との関係を考える。鶴岡八幡宮寺についてはすでに数多くの研究があるが、今は廃寺となった永福寺・勝長寿院など、将軍家・幕府祈願寺の数々についても、その内実を解明する必要がある。

(3) 鎌倉の仏教を考えるためには、高野山を通じて真言密教の世界を支配し、中世律宗展開のきっかけを作った安達氏一門の動向を追跡することが必要である。西院流の流伝についてはすでに検討を加えたところであるが、さらに聖教資料の中から新たな事実を発掘できる可能性は高い。

(4) 西大寺流律宗組織の展開は、西日本を対象とする研究史が厚いものの、東日本における展開を跡づける仕事は少ない。文献にとどまらず、考古・美術等々の素材を使いながら、ネットワーク型宗教の典型ともいえる中世律宗の広がりを、東国を中心に総合的に洗い直す必要がある。

(5) 室町時代になって、律宗のネットワークが衰退するのと入れ替わるように法華・禅(林下・曹洞)・浄土等、いわゆる「鎌倉新仏教」が発展する。その具体的メカニズムを、地域史とネットワーク研究の両面から追跡し、中世後期の宗教界の大規模変動を見通してみたい。

## 3. 研究の方法

本研究は聖教資料すなわち文献を主たる素材とするが、文献の残存が薄い分野においては美術工芸品・伝承資料・考古遺物なども積極的に取り上げ、所期の目的にそって大きくまとめていく予定である。

研究は基本的に金沢文庫を拠点として続行するが、積極的にフィールドワークを実施し、研究史の薄い地域の歴史を掘り起こし、鎌倉を中心とする宗教文化の大きな流れを記述できるように調査・研究を進めていきたい。

具体的な研究方法としては、おおよそ5

本の柱を考えた。

- (1)東国における中世仏教の展開を知るために、中世の鎌倉における最大の聖教資料である「称名寺聖教」を中心に置き、その近辺に現存する「龍華寺聖教」や「宝生寺聖教」の内容把握あるいは目録調査を進め、関東における密教法流の流伝過程を追究したい。また「称名寺聖教」に含まれる中世鎌倉周辺で集積された唱導資料群のうち、注目すべき内容をもつ「千字文説草」の翻刻を進める。
- (2)安達氏一門の動向、特に宗教的遺跡・遺物の探索として、安達氏にかかわる地域に目を広げ、文献のみならず美術・考古遺物を追跡する。
- (3)中世律宗の研究素材として、古来の本山である西大寺および東大寺の資料を採訪し、また東北の律宗寺院の資料についても目を広げる。
- (4)東国における浄土・法華系初期教団の様相については、各宗門史を専門とする研究者と協力しながら資料の博搜につとめ、宗派的史観を離れた立場から鳥瞰し、本研究の目的に相応するように検討を加える。
- (5)伊豆・箱根・三島・富士の中世的信仰世界の究明のために、縁起・聖教・遺物の所在を把握し、地域・時代による変化、鎌倉とのかわり、民俗的事象まで視野に収めて広い範囲におよぶ調査を実施する。

#### 4. 研究成果

〔初年度〕

(1)東日本大震災で被害を受けた福島県いわき市長福寺本尊・地藏菩薩坐像の修理の過程で発見された像内納入文書の調査に比重を置いた。法華経写経の裏面に散在する書状の接合・復元作業を進め、年度末までに大方の接合作業を終え、解読もほぼ一通り出来上がった。

また、長福寺御住職と福島県立歴史資料館の渡辺智裕氏の案内によって、いわき市内の真言律宗寺院を巡検し、立地条件などを確認することができた。

納入文書の調査成果は『金沢文庫研究』330号に概報を掲載し、本彫刻および納入品の重要文化財指定に寄与した。

(2)横浜市金沢区の瀬戸神社に伝来する文化財の調査を実施、あわせて金沢文庫保管「称名寺聖教」から中世の瀬戸神社にかかわる資料の検討・翻刻を進めた。

幕府の崇敬を受けた伊豆の三島大社・武蔵の鷲宮と並んで、鎌倉の一角に位置した瀬戸

神社の重要性が浮かび上がってきた。同社に残る牛玉宝印の版木にかかわる修正会の儀礼次第を称名寺聖教の中から掘り起こし、牛玉作法の具体像が明らかになったことは、中世の儀礼・呪術・信仰をめぐる新事実の発見として特筆しても良いと思われる。これらの資料紹介および研究成果は金沢文庫の特別展図録『瀬戸神社～海の守護神』に収録した。

(3)宝生寺・龍華寺の聖教については、実物を金沢文庫に移動して燻蒸処置を施した。また横浜市教育委員会による過去の調査データを借用し、今後の調査計画を検討した。

(4)このほか、共同研究者の津田氏による仏光寺本『善信(親鸞)聖人伝絵』の調査研究を進め、通説をはるかに遡る南北朝時代の制作であることを考証した。これにより本絵巻が東国初期真宗の重要な遺品であることが明らかになった。

〔次年度〕

(1)東大寺図書館の聖教調査が許可されたことから、宗性・凝然・弁暁等の鎌倉時代の華嚴宗の学僧の著作・手沢本を調査し、また東国の金沢称名寺三世長老となった湛睿の著作が東大寺に収蔵され、高く評価されてきた実績を掘り起こした。

これらの調査の成果は、金沢文庫特別展「東大寺～鎌倉再建と華嚴興隆」に反映させ、一般公開するとともに、図録を作成して学界に提供した。

また、称名寺聖教に残る東大寺尊勝院弁暁の説草については『尊勝院弁暁説草』(勉誠出版)として公刊した。鎌倉時代初頭の東大寺再建に大きな働きを残した弁暁の活動が、具体的に明らかになった。

(2)いわき市長福寺地藏菩薩坐像納入文書については、翻刻および内容分析を進め、成果の一端は福島県文化振興財団主催の地域史研究講習会(2014.2.23)で発表し、地域に還元した。

(3)宝生寺聖教については、横浜市教育委員会のデータの補充作業を継続し、八王子市域の豪族で、戦国時代に滅亡した栲田城主長井氏の回向文があることを確認し、『八王子市史』資料編に採録した。

(4)湛睿説草については、納富常天氏による既存テキストデータを電子化し、補遺にあたる資料の発見と翻刻にあたった。千字文説草については、目録を点検し、内容解析を進めた。

〔最終年度〕

(1)いわき市長福寺地藏菩薩坐像納入文書について、接合作業および翻字作業を終了し、内容分析をおこなった。東北の「海道」地域に関わる重要な中世資料であり、律宗史の上

でも注目される発見であることから、体裁を整えて早期の公刊をめざしたい。

(2)宝生寺聖教については、全体的な目録確認作業を終え、資料のグルーピングを試みた。『神祇明鏡集』『道決鈔』『秘密宝蔵鈔』などの稀覯書が含まれていることを発見した。その内容については、改めて本文内容を精密な検討を続けたい。

(3)称名寺聖教の説草資料の中で重要な部分を占める「千字文説草」については、全体的な把握を行った上で、一部翻刻作業に着手した。多岐にわたる資料が含まれていることが判明したので、さらに積極的に翻刻の完成を目指したい。

(4)湛睿説草の追跡調査を完了し、内容分析を進めた。平成 27 年度中の公刊を目指して作業を進めている。

また称名寺聖教の断簡調査に参加し、注目すべき資料を見いだした。これについては追って紹介したい。

(5)室町時代の称名寺について研究を進め、企画展「動乱の金沢」として公開し、図録を作成した。従来不明であった南北朝時代以降の称名寺歴代長老について概略の人物比定に成功した。室町時代の称名寺と権力の関係についても新知見が得られた。

#### 〔3年間の総括〕

(1)金沢文庫が管理する称名寺聖教を対象とする研究においては、説草を主とする唱導資料の整理が進展し、新たな知見が得られた。既に知られている比叡山系の安居院の他に、東大寺で形成された弁暁説草の全貌が明らかとなり、さらにそれら中央権門寺院で形成された古典的テキストを踏まえて、鎌倉周辺において新たな説草の生成・活用が行われたことは、唱導という狭い分野の事象ではあるが、中世文化のあり方を考える上で重要な側面を見いだしたものと位置づけられる。

(2)いわき市長福寺地蔵菩薩坐像納入文書の解読調査から、鎌倉時代後期における地方律院の成立過程が浮かび上がってきた。そこからは、律と禅が混交した形で伝播していたことがうかがえる。外護者や権力との関係、律宗のネットワーク上の位置づけなどについては、さらに調査・研究を進める必要がある。

(3)瀬戸神社の研究を進めた結果、伊豆三島社ひいては伊豆山・箱根・富士を取り巻く宗教的ネットワークが鎌倉近傍から関東内陸まで広く展開していたことが浮かび上がってきた。鎌倉「新」仏教を涵養する母体ともなった東国の宗教的ネットワークの存在は、宗教のみならず、文学や芸能を考える上でも重要なファクターとして位置づけられよう。今

回得られた知見をもとに、さらに研究を推進していきたい。

(4)室町時代以降の成立にかかる宝生寺聖教の調査を進めたが、鎌倉～南北朝時代に成立した称名寺聖教とはだいぶ性格が異なることが分かった。関東の真言密教については、南北朝・室町時代の間には断層があり、関東独自の法流の発展は頓挫した可能性があるため、龍華寺聖教も参照しつつ、なお追究を深める必要がある。

(5)研究基地となる金沢文庫において、平成 26 年秋に収蔵庫にカビが発生する事件が発生し、その対応に追われたため、当初予定していた地方の資料調査ができなかった。その代わりに、宝生寺聖教・称名寺聖教の調査を進めたが、研究の主要項目の一つが欠落したことは遺憾である。今後の課題としたい。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

西岡芳文・瀬谷豊之・永村眞・福島金治・渡辺智裕・若林繁・福島県いわき市長福寺本尊地蔵菩薩坐像と像内納入文書 - 概報 -、金沢文庫研究、330号、1～33頁、2013、査読有

西岡芳文、紙背にこめられた中世人の思い、「こもんじょざんまい」(神奈川県立歴史博物館)、184～189頁、2013、査読無

津田徹英、佛光寺本『善信聖人親鸞伝絵』の制作時期をめぐって、美術研究 408号、1～94頁、2013、査読有

西岡芳文、ダキニ法の成立と展開、「朱」(伏見稲荷大社、57号 154～181頁、2014、査読無

西岡芳文、鎌倉における古典知の集積とその背景、「鎌倉研究の未来」(中世都市研究会編・山川出版社)、29～47頁、2014、査読有

西岡芳文、建長寺の学問～玉隠英輿を中心に、「東アジアのなかの建長寺」(勉誠出版)、410～418頁、2014、査読無

西岡芳文、夢窓疎石と金沢の禅風、「津久井光明寺」(金沢文庫)、76～79頁、2015

〔学会発表〕(計5件)

西岡芳文、称名寺聖教類について、国際シンポジウム「東アジアをむすぶ漢籍文化 - 敦煌から正倉院、そして金沢文庫へ - 」2012.11.3、国立歴史民俗博物館

西岡芳文、鎌倉における古典知の集積とその背景、中世都市研究会「鎌倉研究の未来」、2013.9.7、鎌倉女子大学二階堂学舎

西岡芳文、地域社会における文化・学術施設の課題と将来像、金沢・鎌倉フォーラム第2回シンポジウム、2013.12.7、関東学院大学

西岡芳文、いわき市長福寺本尊地藏菩薩坐像納入文書について、福島県文化振興財団「平成25年度地域史研究講習会、2014.2.23、福島県文化センター

西岡芳文、金沢文庫における文化財の修理と保存、神奈川県博物館協会シンポジウム「博物館の未来をさぐる」、2014.9.28、横浜情報文化センター

〔図書〕(計3件)

「称名寺聖教・尊勝院弁曉説草～翻刻と解題」神奈川県立金沢文庫編・勉誠出版、438頁、2013

「東大寺～鎌倉再建と華嚴興隆」金沢文庫特別展図録、136頁、2013

「瀬戸神社 - 海の守護神 - 」金沢文庫特別展図録、80頁、2013

「動乱の金沢」金沢文庫企画展図録、48頁、2014

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

西岡 芳文 (NISHIOKA YOSHIFUMI)

神奈川県立金沢文庫 学芸課長

研究者番号：90443407

(2) 研究分担者

福島 金治 (FUKUSHIMA KANEHARU)

愛知学院大学文学部 教授

研究者番号：00319177

津田 徹英 (TSUDA TETSUEI)

独立行政法人国立文化財機構東京文化財

研究所企画情報部 室長

研究者番号：00321555

伊東 聡 (ITO SATOSHI)

茨城大学人文学部 教授

研究者番号：90344829

向坂 卓也 (MUKOUZAKA TAKUYA)

神奈川県立金沢文庫 主任学芸員

研究者番号：10443409

岡本 綾乃 (OKAMOTO AYANO)

神奈川県立金沢文庫 主任学芸員

研究者番号：40443410

瀬谷 貴之 (SEYA TAKAYUKI)

神奈川県立金沢文庫 主任学芸員

研究者番号：50443411

高橋 悠介 (TAKAHASHI YUUSUKE)

神奈川県立金沢文庫 学芸員

研究者番号：40551502

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：